

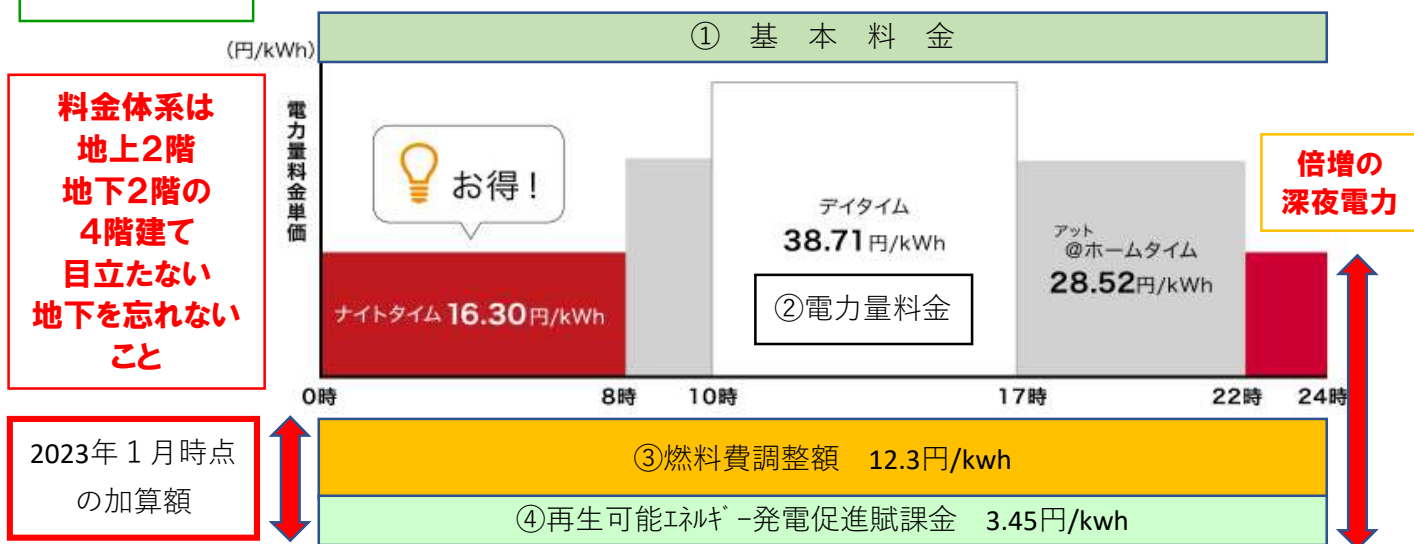
知って得する 住まいづくり情報 知得

太陽光発電&蓄電池 = エネギ - 自給の勧め

この冬、電気料金の高騰でお悩みのお話が多数寄せられました。その一方、少数派かもしれませんが、それほど影響のなかった方もあり、その違いについて考えてみました。

しっとく 12-2

電気料金高騰の影響が最も大きかったご家庭は「夜型タイプ」といえます。これまで深夜電力は、「安くてお得」という定評があり、これを活かすことが料金節約の大原則でもありました。



ところが今回この信仰ともいえる**お得大原則が、いつのまにか災いの種**になっていたのです。従来の電気料金は

①基本料金+②電力量料金 で計算されていて誰にも分かりやすかったのですが、現在の電気料金は

①基本料金+②電力量料金+③燃料費調整額+④再生可能エネルギー発電促進賦課金 という4階建て料金になっていて、③と④については昼夜関係なく加算され、しかもこの冬の加算部分がバカにならないほど高騰していたのです。

例えば1月は③が¥12.3/kWh、④が¥3.45/kWhで、計¥15.75/kWhの加算！だったわけで¥16.3/kWhだったはずの深夜料金が、¥32.05/kWhと倍増になっていたわけです。

この値段で、これまでどおりエコキュート、食洗機、洗濯機などを「深夜運転」し、暖房も夜主体に温めていたとしたら、**実感的に電気料金5割～8割増**というのも納得できないにせよあります。なにしろ**深夜電力は倍増**ですから

一方、電気代が月6,000円で済んだなど、それほど影響なく過ごされたケースでは、「**情報を活かし、昼型の電力使用を心がけた**」のが特徴で、その前提には高性能な住宅と比較的大きな太陽光発電設備です。エコキュート、食洗機、洗濯も太陽光で自家消費！更に暖房も昼間温めて、夜はその余熱で過ごす。熱容量の大きな外断熱住宅なら十分可能です。

前述の③燃料費調整額は3ヵ月前の3ヵ月間の原油や天然ガスなどの燃料価格をベースに単価が決まり、電力会社HPに公表されています。例えば1～3月の原料価格をもとに6月の単価が決まります。この情報(数字)を知った上で太陽光の自家消費を心がければ、かなりの料金節約が可能です。加算部分は購入電力のみに掛かり、自家消費には掛からないからです

太陽光の自家消費で電気料金高騰を乗り切る！